

# 経済 TOPICS

No. 151

(2018年9月21日)

## 景気ウォッチング(要旨)

### I. 日本経済「設備投資を牽引役とする緩やかな景気拡大が続くが、足許はやや足踏みの様相」

第2四半期のGDP成長率は、設備投資中心に大幅なプラスとなった。もともと、目先第3四半期の日本経済は、貿易摩擦懸念に加え自然災害集中(大雨・台風・地震等)もあって、輸出・生産が伸び悩んでいるほか、個人消費も力強さに欠けるなど、全体としてやや足踏みの様相を呈している。こうした状況下、成長の牽引役と期待される設備投資が、今後、当初の年度計画通りきちんと大幅増となるか、あるいは様子見姿勢が強まるかが注目されている。

この間、金融市場では、為替相場がやや円安気味となっていることもあり、株価は約4か月ぶりに23千円台を回復。

### II. 米国経済「貿易摩擦激化にもかかわらず、減税効果等に支えられて景気は一段と力強さを増している」

米国経済は年率3%前後の高い成長を続けており、貿易摩擦の激化にもかかわらず、景況感を示す指数はいずれも十数年ぶりの高い水準を示している。こうした景気の力強さは、大幅減税や財政支出拡大による面が大きく、これらによる成長率押し上げ効果は本年末にかけてさらに大きくなっていくとみられている。この間、金利・株価も強含みで推移。

賃金・物価の上昇率がやや高まってきたこともあり、金融当局は今後しばらくは利上げを続けていくとみられているが、市場では「来年前半に景気がピークアウトし、来年央頃に利上げも打止めになるのではないか」との見方も根強い。



京都銀行グループ

京都総合経済研究所